

## セゴビア水道橋

## Bridges of the World

スペイン・セゴビア



スペイン・1974年発行

セゴビアの中心部の天空を古代ローマの水道橋が渡っています。この石橋は現存する古代の水道橋の中でも最大級のものです。建設されたのはローマ帝国の最盛期、紀元後1世紀末から2世紀の初め頃と考えられています。

セゴビアへ水を供給するために、水源地のフリオ川から17kmにわたって建設された水道施設がセゴビアの街へ到達する最後の部分にあたります。この直線部分の長さはおよそ300m、2層の石造アーチから成り、下の道路からは28.5mの高さがあります。

2層部分は44径間から成り、純径間長は5mほど、頂部には50cm角ほどの断面を持つ水路があり、1%の勾配で水を送っていました。石材は5kmほど離れたところで産出する花崗岩が用いられ、およそ2万個、合計2万トンの石が空積みで積まれ、石の表面に残った窪みなどから簡単なクレーンも使われたと推測されています。

セゴビアは、イスラム勢力の支配の後、キリスト教勢力の統治下で城壁都市として再建されますが、水道橋も全面的に修復されて再び活用されるようになりました。

そして19世紀まで水を供給し続けました。

その間に「悪魔の架けた橋」という伝説が生まれます。

昔、悪魔がセゴビアの娘に恋をします。日々の水汲みに疲れていた娘は、もし明朝までに家まで水を引いてくれたなら言うことを聞くと返事をします。その晩、悪魔は必死で石橋を架けますが、最後の石をはめ込もうとしたところで日の出が始まりました。娘は約束が違うと訴え、法廷で認められたため、悪魔は石橋を残して退散することになったということです。

ローマの技術が継承されなかった中世に、この偉大な構造物に畏敬の念を抱いた人々が作り出した物語なのでしょう。そのような人々の思いを伝えるように、石橋には聖母子像や十字架が掲げられています。

水道橋には修復の手が加えられ、1985年には世界遺産に登録されました。橋の下には街の中心部のアソゲホ広場に通じる道路が通っていて、車による振動などの影響も心配されていますが、現代の街と古代遺跡が共存する風景が魅力になっています。



撮影：松村 博